

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010250

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	B	
単位施策	2 小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	教職員住宅環境整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	教員住宅の適切な維持管理	関係課	#N/A	
事業目標	各小・中学校教員住宅	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	教職員住宅の改修	沢木小学校教員住宅給水設備改修 2,000千円 共栄小学校教員住宅内窓改修 1,900千円 幌内小学校校長住宅改修 1,500千円 沢木小学校校長住宅給水設備改修 900千円		全教員住宅の状況調査	教員住宅改修計画策定		
	事業費(千円)	6,300	6,300	0	0	0	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	6,300	6,300					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	6,108	6,108	0	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	6,108	6,108					
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】	沢木小学校教員住宅給水設備改修 共栄小学校教員住宅内窓改修 幌内小学校校長住宅改修 沢木小学校校長住宅給水設備改修  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等)	全教員住宅の状況調査  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等)	※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	沢木・共栄・幌内の各教員住宅	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	97%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率	97%	97%	97%	97%	97%
	備考欄						

事業名	教職員住宅環境整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	澤田 朋 朗
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課教育総務係長	高橋 洋 祐

様式1  
平成28年度実施  
平成29年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	教職員住宅整備戸数	
【抱える課題やニーズは】	教職員住宅の老朽化に伴い部分改修整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目 標 値 及 び 実 績 値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	老朽化住宅の整備を推進する。	① 教職員住宅整備戸数	目 標 年 度	平成28年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	良好な住環境の整備を推進する。		目 標 値	0戸
			実 績 値	0戸
			達 成 度	#DIV/0! %
		②	目 標 年 度	平成28年度
			目 標 値	
			実 績 値	
			達 成 度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	計画策定	教員住宅改修計画の策定について、更なる検討を要することから、先送りとした。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	老朽化した教職員住宅の改修整備を行うことは、住宅の延命化を図るとともに、住環境整備が推進されるため、必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	計画策定に基づく改修に至らなかったことから見直しが必要と判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業実施に至らずコストは未発生と判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	地域住民でもある教職員の住環境の改善を図る事業であり、町民の理解も得られるものと判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>C</b>		
突発的な要修繕発生には適宜対応しているが、計画策定に基づく改修には至らなかったため見直しが必要です。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/内容の見直し・変更		
教職員住宅改修計画の策定については、更なる検討を要することから、内容の見直しを行うこととしますが、今後も老朽化している教職員住宅の点検等を行い、計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了  休止  廃止